

# ほっけん

348 しなぶえた!



## 大崎短歌会

兼題 『灰汁巻き(ちまき)』  
・自由

神棚に粽捧げ稚児祝ふ

風も清けし端午の節句

大鍋に二十数本のチマキ煮し

遠き日おもいつ贖う一本

竹箴に灰汁巻き並ぶ竈よこ

五月雨月の懐かしき味

あくまきを大釜で煮る庭先に

湯気ゆらゆらと空に吸わるる

河川敷七匹の鯉のぼり

高二の僕も悠々仲間入り

さくら餅灰汁巻き並ぶ節句かな

心うきうき子等もすすく

この頃のちまき程良く小振りなり

むかし大釜に炊きしこと思ふ

実吉安仁

穂園芳江

井元かず子

山下海征

栞山重子

川崎健一

上南紀子

ふつつと二時間炊きしあくまきの

良き出来栄えや凡の温もり

五月晴れ竹皮に包みし九十二本

釜で語るや灰汁巻き背比べ

本後淑子

馬場みさ

## 薩摩郷句

兼題 『相撲』

激し相撲 裁べちよい行司が 先き転倒つ

(唱) 大丈夫じゃいな 周囲が心配焼つ

泣つ相撲い 優勝そち親は 尻ゆ抓ん

(唱) ごめん早よ泣け 優勝あ其処じゃ

田舎相撲 どん腹同士に 凄ぜ拍手

(唱) 力士も顔負け 立派な腹じゃ

二見愚楽満

北村虎王

今日かい相撲 日長げ爺さんの 守ゆばしつ

(唱) コップ片手い 頑張れち大騒動

西ノ園ひらり

近頃ん 相撲取や外傷で 多け休場

(唱) 横綱大関 総なめ休ん

上窪小絵

懸賞金 片手じゃ持てん 勝名乗い

(唱) どしこないけち 計算ん亭主

上村牛歩

今日もセレブ 特等席で 観い相撲

(唱) テレビ映いの 良か所き座つ

佐藤ぼつけちゃん

孫達の 腕白相撲い 爺あ励つ

(唱) 将来ちや相撲取い なかそち爺様

満石うらら

夏場所ん 相撲はサッカーい 切り換えつ

(唱) 休場が多こし 気力ん無相撲

藤元鬼瓦

一人相撲 恐ぞけん無よな 車事故

(唱) 聞けば聞つ程 後堰がしつ

中尾亜痛世

近頃は ちびつ子相撲も 子供が減つ

(唱) ちびつ子なんだ 近きな居らん

長重リリー

孫と相撲 割れた大皿い 婆ん角

(唱) 外で暴れち 大か雷

下橋清天